

令和5年度第1回上天草市総合教育会議 会議録

開催日時	令和5年8月23日(水) 14時30分～16時30分
開催場所	上天草市役所松島庁舎 3階大会議室
出席者氏名	市長 堀江 隆臣 副市長 村田 一安 教育長 岩崎 宏保 【教育委員】 山下 勝一 藤田 慶 千原 めぶき 木村 美矢子
欠席委員	無し
事務局等氏名	教育部長 赤瀬 耕作 【総務課】 課 長 海崎 竜也 【学務課】 課 長 宮崎 真司 教育審議員 谷上 健作 課長補佐 川本 宜史 教育企画係長 小島 潤 施設係長 和田 真哉 【社会教育課】 課 長 小浦 嘉彦 課長補佐 瀬脇 和弘 生涯学習係長 塚本 洋子 文化教育係長 松下 伊津子 スポーツ推進係長 森 隼人
傍聴人の数	0人

1 開会

○**赤瀬教育部長** 定刻となりましたので、ただいまから令和 5 年度第 1 回上天草市総合教育会議を開始します。私は、本日の進行を務めます赤瀬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、会議を進めさせていただきます。はじめに、本日の会議の主催者であります堀江市長が挨拶を申し上げます。

2 市長挨拶

○**堀江市長** 本日はお忙しい中にもかかわらず、令和 5 年度第 1 回目の上天草市総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。委員の皆様方には、日頃から本市の教育行政はもとより、市政全般に当たりまして深いご理解とご協力を賜り、この場をお借りしまして感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が第 5 類に移行されてから、早数か月が経とうとしております。コロナ禍以前のように、徐々に活発に色々な行事であるとか活動も実施されるようになってきているところですが、なかなかまだ完全に終息したという状況には至っておらず、それぞれの学校においても心配事も多々あるのではないかという風に推測をしているところでございます。

本日開催をする総合教育会議というのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきまして設置されているものでございまして、地方自治体の首長と教育委員会が連携して行政の推進を図るということを目的に実施されています。

上天草市においても年に 2 回程度実施をしている状況でございまして、この会議を通じて、我々一般行政を担当する者と、そして教育行政を担当する皆さま方との意見交換の場という風になっております。ただ、教育行政というのは、あくまでも独立機関として実施主体となるのは教育委員会でございますので、この会議の中での意見等を踏まえて、教育委員会として活発な活動を応援したいと思っているところでございます。

会議を通じて、実りのあるものとなりますようお願いをして、挨拶に代えさせていただきます、どうぞよろしくお願いいたします。

3 会議公開協議

○**赤瀬教育部長** 続きまして、会議の開催に当たり、上天草市総合教育会議運営要綱の規定に基づきまして、会議の公開について、ご協議させていただきます。本日の会議は、設置要綱第 6 条ただし書で定める非公開とすべき議事であります「個人の秘密を保つため必要があると認められる場合」又は「会議の公正が害されるおそれがあると認められる場合」に該当せず、会議を公開してよろしいかお伺いします。

＜「異議なし」の声あり。＞

ご異議がないようでございますので、本日の会議は公開とさせていただきます。それでは、議題に入らせていただきます。以降の進行については、運営要綱第 4 条に基づきまし

て、総合教育会議の議長である堀江市長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

4 議題

(1) 教育現場におけるD X化の推進について

○堀江市長 それでは早速ではございますが、協議に入らせていただきます。議題1「教育現場におけるD X化の推進について」事務局から説明をお願いします。

○宮崎学務課長 よろしく申し上げます。資料1をご覧ください。教職員の超過勤務が社会問題となり、働き改革の重要性が求められている中、本市においても教職員の超過勤務が課題となっています。

一方で、1人1台のタブレット導入など、学校のI C Tを推進していますので、学校現場におけるD X化を推進し、教職員の業務の効率化などに加え、働き方改革を推進することを今回の議案とさせていただきました。

それでは教育現場におけるD X化の推進について説明します。社会を取り巻く環境につきましては、仕事でも家庭でも社会のあらゆる場面でI C Tの活用が日常のものとなってきています。これを受け、国が目標とするG I G Aスクール構想に基づき、児童生徒向け一人一台タブレット端末や、電子黒板の設置、高速大容量の通信ネットワークを学校施設に整備するなど、教育現場におけるI C T環境の整備に努めてきたところでございます。

今回、これらの設備等をさらに充実し、利活用を図っていくことで教職員の働き方改革や、児童生徒の学力向上など、教育現場における課題等を解決していこうとするものでございます。

1番目、教育D X化の必要性に入ります。D X、デジタルトランスフォーメーションとは、デジタル技術を活用して、人々の生活をよりよい状態へ変革するということでございます。現在、子供たちの生活環境は、スマートフォンやタブレット端末が日常的に存在している時代であり、社会に出てから、仕事や暮らしの中で、今よりもっとデジタルが浸透した社会を生き抜くことが予想されます。このため、未来を生きる子供たちは、従来とはまた違った知識やスキルが求められ、デジタルを意識した教育が必要となっております。

また、D Xの進捗によっては、これまで実現出来なかった教育が可能となり、従来の教育現場が抱えていた、教職員の長時間勤務や、教師による授業の質の違いといった課題の解消にも、力が発揮されることが期待されています。

2番目の本市のI C T機器の整備状況に入ります。資料の表をご覧ください。本市の主な整備内容につきましては、記載のとおりでございます。タブレット端末につきましては、教員用、講師用、児童・生徒用として1,989台を導入しております。学習支援ソフトはベネッセのミライシードを導入しています。ミライシードには、生徒への問題出題や、生徒からの回答提出、電子黒板に掲示する授業支援ソフトのオクリンクや、問題集としてドリ

ルパークなどが含まれています。導入当時、家庭でのネット環境の整備が進んでいなかったこともあり、サーバー版での導入でございました。

電子黒板につきましては、全ての普通教室に導入しており、理科室等の特別教室でも利用できるよう各学校に配布し全体で 133 台を設置しております。

ネットワーク環境の Wi-Fi のアクセスポイントを 217 か所設置するなど、全ての教室や体育館に整備してございます。

コロナ禍における遠隔授業の実施に伴い、モバイルルーターを 10 台準備、また、教職員のサポートを行うため、ICT 支援員や GIGA スクールサポーターの配置なども行っていました。

このように、国の GIGA スクール構想に基づき、積極的に ICT 環境の導入を進め、未来を担う子供たちの学びの充実に努めてきたところでございます。一方で、子供たちの授業で活用できるシステムや機器の導入を進めてきましたが、職員の働き方改革をさらに推進するため、校務に係るシステム推進などが必要となってきたところでございます。

次のページをお開きください。3. 教職員の長時間勤務の社会問題に入ります。学校を取り巻く課題としましては、社会が急速に変化する中でより複雑化・困難化してきています。時代や社会の変化とともに、新学習指導要領を初めとした教育内容や学校の機能・役割が大きく変化する中、それぞれの職責を果たすために、本市でも長時間労働に従事している教職員が多く存在しております。

長時間労働は教職員の心身や健康に影響を与えるだけではなく、教職員の能力開発の機会喪失や、教職員間の協働関係への悪影響をもたらし、ひいては子供たちへの教育にも大きな影響を及ぼすことも考えられます。また、新聞等で報道されている教職員のなり手不足という全国的な問題にも直面しているところでございます。ここから本市の教職員の勤務状況や、校務支援システムについて、谷上審議員から説明をいたします。

○学務課 谷上学務課教育審議員 はい。失礼いたします。本市の勤務状況、現状についてご説明いたします。中段の左側の表、令和 5 年度超過勤務月別一覧をご覧ください。この資料は、本年度の 4 月から 7 月までの市内の教職員の超過勤務状況をまとめたものです。資料の左上の令和 5 年 4 月の欄をご覧ください。45 時間以上の超過勤務者の合計が 84 名でした。また、80 時間以上をご覧くださいと、上段の管理職が 6 足す 1 で 7 名、中段の教職員が 10 足す 1 で 11 名ということが分かります。なお、5 月は 97 名、6 月が 99 名、毎月全教員 214 名の約 4 割以上が超過勤務状況ということが分かります。ただ、7 月に関しては、例年、夏季休業に入るということもあり 40 名と少なくなっております。

隣のグラフをご覧ください。4 月の超過勤務者の事由ごとの割合を載せております。主な内容としましては、校務分掌や教材研究、事務処理や保護者対応等に加え、中学校では、部活動などが挙げられます。また、隣の円グラフをご覧ください。令和 4 年度の超過勤務者の総数は 220 名の教職員のうち 135 名で、全体の 6 割以上が超過勤務経験者と

なっております。さらに、超過勤務者の平均残業時間が約 60 時間でありました。

このようなことから、教職員の労働時間の削減を図り、教職員が本来業務に専念できる環境を整備するためにも、業務の効率化や校務支援の I C T 化が喫緊の課題であります。

3 ページをご覧ください。次に本市の校務支援の I C T の現状についてご説明いたします。本市は平成 15 年の旧大矢野町時代から、校務支援システム「貯蔵シリーズ」を全県下に先駆け開発導入しており、市内の小中学校でも現在活用されております。主なものを紹介いたします。教職員の勤務状況の服務に関し、主に教頭先生をサポートする「教頭貯蔵」、月行事や時間割等を管理し、主に教務主任の先生方をサポートする「教務貯蔵」、学校の文書、収受、発送等を管理し、主に事務職員や教頭先生をサポートする「文書貯蔵」があります。これらのソフトは現在も各学校で効果的に活用されており、業務の効率化に大きな貢献を果たしているのも事実でございます。

併せて昨年度には、7 月から各学校に留守番電話を設置するなど、市内の校長会と連携を図りながら、教職員の業務、職場環境の改善に努めてまいりました。ただ一方で課題もあります。令和元年度の文部科学省の通知文では、指導要録等に係る教師の勤務負担軽減のために、指導要録といわゆる通知表のデータの連動を図ることなど、設置者である市町村教育委員会は、統合型校務支援システムの導入を積極的に推進するよう求められております。統合型校務支援システムとは、成績、出欠、時数等を管理する教務系、健康診断等を管理する保健系、指導要録を管理する学籍系や学校事務など、これまでの、貯蔵シリーズにはない総合的な機能が含まれております。特に、本市の課題といたしましては、現在、市内の小中学校では、指導要録や通知表に関しましては校務用のパソコンで作成されている学校が多くなってきておりますが、両者はデータ上で連動しておりません。実際は、紙ベースでの保管でありますので手書きの部分がワープロに変わったと捉えていただけるとご理解しやすいかと思えます。

このことは、教職員が事務に関する負担だけでなく、データ管理という不安な面もあります。指導要録等の管理につきましては、現在は学籍に関する記録が 20 年間、指導に関する記録が 5 年間、また、健康診断等は進学先へ送付することとなっておりますが、いずれも紙媒体で学校は行っております。具体例を挙げるならば、規模は違いますが例えば市役所で戸籍抄本や住民票のようなものが紙媒体で保管されているという風に捉えていただけると分かりやすいかと思えます。

そこで、今後の方向性として統合型校務支援システムを導入することで、指導要領をデータ等での保管が可能となります。さらに小学校から中学校へ進学する際は、小中学校間でデータの引継ぎが可能になります。指導要領だけでなく、ほとんどの学校が毎年、紙媒体で作成、修正している家庭基本調査票などもデータベースで引き継ぐことが可能となります。このシステムは、現在県下でも多くの市町村で導入されております。参考までに、別紙の A3 版のスズキ校務支援システム資料として載せております。そこでこれらのことを鑑み、できるだけ早急に校務支援システムの導入が必要であると考えております。以上

でございます。

○宮崎学務課長 それでは次のページをお開きください。「5. 教育D X化に伴う業務効率化について」についてに入ります。学校現場におけるD Xとしましては、校務支援システムについて、谷上審議員から説明があったとおりでございます。このほかにもインターネットを活用した学習支援ソフトを充実いたします。中学校では、A I型学習支援サービスeライブラリ（ラインズ）を9月から導入します。お手元には2人に一冊しかありませんが、パンフレットをご用意いたしました。デモも出来ますので前の画面をご覧くださいと思います。

＜会場前方のスクリーンにでも画面を表示＞

これが生徒用の画面になります。出版社の教科書に対応しており、本市が採用している、教科書に対応しております。単元が順番どおりになっています。子供たちには学校で学んだときに、例えば、単元ごとの流れになっておりますので、子供たちにとっては復習とか予習とかもしやすい状況になっております。それから問題を解いていくと、どんどんそのデータが蓄積されていきますので、ここが苦手であるとか、ここは得意分野であるかっていうのを子供たちが自分たちでも分かるような形で出てきます。また、苦手をなくするという形で、中段ぐらいにそういう問題が出たり、テーマなどからも途中からでもできます。

また、得意を伸ばそうという子供たちの学習意欲を、駆り立てるような中身になっていきます。1番右側で振り返りのところにたんぼの種がございますけれども、これはどんどん解いていくことによって、芽吹き、花になっていくような形で成長も楽しめるようなシステムになっております。ちょっと1題ぐらい何か問題を出したいと思います。例えば単元からですと、先ほどの教科で、九州地方ということであります。九州地方の地形ということで、問題が出せるようになります。そして標準を押して進んでいくと問題が出てきます。九州地方は火山の多い地域であり、その利用もいろいろ行われていますが、火山活動を活用したものではないものを下から一つ選んでください。「八丁原地熱発電所」、「別府温泉」、「屋久島観光」という問題です。

○藤田教育委員 屋久島観光でしょう。

○宮崎学務課長 「屋久島観光」を選んでいただいて、答え合わせをすると「正解」です。次は、九州地方の南部に多くみられる「シラス」と呼ばれる土地の説明として正しいものを下から選んでください。「火山の噴火物が積み重なってできた地層」、「引き潮のときに現れる遠あさの土地」、「火山活動によってできたくぼ地」、「川の働きでできた肥えた地層」ということで4択です。市長、お願いします。

○堀江市長 1番。

○宮崎学務課長 1番上を選択して答え合わせをします。正解です。こういう形で子供たちにとって、1問ずつ解答できます。間違えると例えば、（九州地方の）火山ではないものは「大山」なんだろうけど、「桜島」とかを間違えて選んで答えを押すと「×」とでます。ヒントや解説も出てくるようになっていきますので、間違えたときには確認出来るよ

うになっています。これが子供たちのできる部分になります。

続きまして、先生方が見る画面がこちらになります。例えば成績管理というところで、個人だったり、クラスで見られるようになっておりますので、4台デモを用意していますので、後でもさわっていただければと思います。学習の取組姿勢とか学習行動というところが見ることができます。あとは学習指導というところがあって、ここからは先生から一斉に問題を出題して問いてもらったりすることができるシステムで、宿題の出題ができる。

また、プリントという形で高校入試の過去問題や、いろんな問題集が入手できます。そして、今皆さんがどこまで解いているかもわかります。あとは、紙で出したりする問題も容易に作成したりすることができる教材になっています。

○**山下教育委員** 学校で予習・復習もできるのですかね。

○**宮崎学務課長** はい。できます。生徒の苦手克服だったり、興味関心のある教科など、家庭学習にも活用しやすいです。先生方の採点の軽減や、学習状況の管理も容易にできるので、例えば三者面談の際に子供の学習状況を「ここまで頑張っていますよ。」とかってお話もできると思います。

○**山下教育委員** データがそのまま使えるので、確かにいいですね～。

○**宮崎学務課長** はい。あと小学校では、ドリルパークといってベネッセのサーバー版から、A I 型対応のA S P 版に変えて運用を行っておりますので、小学校でも同様の形で、運用を行っているところです。

ほかにも、オンラインを活用した外部人材の「外の風」師匠による講話等の実施ということで資料のほうに戻ります。地元出身者の都会等で活躍される外の師匠を講師として、場所に左右されないオンラインを活用することで、キャリア教育や総合学習の時間等活用して実施し、子供たちの学習意欲の向上や、将来の進路の選択肢の拡大にも寄与することに期待できます。

一方、D X 化を進めるにあたり課題もございます。教育D X 化の課題としましては、P C 等の活用により、教職員のスキルアップが必要となります。得意とする教職員との格差が出てきているところでございます。これにつきましては、県や市の主催する、研修会の実施等によりスキルアップ。あと I C T 支援員やG I G A スクールサポーターを配置して支援体制を整えております。また、D X 化を導入する場合は、当然費用がかかってきますので、多くの予算が必要となります。

家庭学習の自立に当たりましては、市の施策によりまして光ファイバーの充実が図られ、多くの児童生徒の家庭で Wi-Fi 環境整備が進んできましたが、まだ一部の家庭で未整備の世帯がございます。義務教育課程の中では、全ての子供が利用できる環境が必要であるのではないかと考えております。それから外の師匠としての講師を務めてもらう人材確保が必要になってきます。学校だけでは、人材の確保が難しい状況ですので、その辺のサポートをいただけるような体制づくりも必要になってくると思います。

このように様々な課題がございますが、教育D X化は、やり方によりましては、業務の効率化を進めるとともに、学力向上にも結び付くものと考えております。

今回、本会議におきましてD X化について、様々な角度からのご意見等をいただきながら、上天草市の教育振興の方向性の参考にさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上で説明を終わります。

○堀江市長 ただいま「教育現場におけるD X化の推進について」ということで説明がありましたけれども、かなりボリュームたっぷりの説明ではあったのですが、全部伺っても時間がありますので。ご質問ご意見等があればお願いしたいと思います。はい。どうぞ。

○村田副市長 すいません。ただいま、色々説明があつて、被るかもしれませんが、インターネット活用の学習支援ソフトについて、教育現場における活用がしやすいとのことですが、まず、最初に本市の学力の現状を教えていただければと思います。他市との比較というところでお願いします。

○谷上学務課教育審議員 では、失礼いたします。4月に行われたいわゆる全国学力テストの結果が公表されたところで、本市と県を比較してということではよろしいでしょうか。

○村田副市長 はい。

○谷上学務課教育審議員 小学校で、国語、算数とも1ポイント程度低いのが現状です。中学校になりますとその差が大きくなりまして、4ポイントから最大で英語科のほうで6ポイント程度低くなっているのが現状でございます。以上でございます。

○村田副市長 今、谷上先生からありましたけれども、県と比較すると低いとのことでございます。先ほど説明がありましたが、導入によります効果といいますか、学力向上するための活用方法というのは、今さっき宮崎課長から説明があつたような形で捉えていいんですね。

○谷上学務課教育審議員 はい。よろしいですか。先ほど課長から説明がありました家庭学習、また授業での効率化、活用とあわせて、その分で時間が大分削減されます。先生方が、本来の授業の教材研究の時間というものが十分に確保出来て、一人一人に寄り添う時間などがとれるのではないかというような効果を期待しています。以上でございます。

○村田副市長 わかりました。もう1点いいですか。家庭のWi-Fi環境の未整備の世帯があるということで、課題の中にごございますが、ない世帯に対する対応についてお尋ねをしたいと思います。どのような対応を考えているか。お願いします。

○宮崎学務課長 先程、お話ししましたが、市の方では光ファイバー網の整備は十分進めてきたところでございます。7月に、各家庭にアンケート調査を実施したところ、小学校で92%の回答率がありまして、Wi-Fi環境がある世帯が94%でございました。中学校につきましては、回答が78%でWi-Fiの環境があるというのが97%ということで、全体では95%がWi-Fi環境があるという状況でございます。実際にはそのパーセンテージでいきますと大体100人前後ぐらいがWi-Fi環境がないという状況になります。ひとつは光ファイバー網をやはりどんどん促進するというのも考えられますが、経済的な部分とかが出

ているのかもしれませんが。そこで、ちょっと業者のほうに確認したところ、タブレットの端末だけ Wi-Fi でインターネットに繋ぐシステムがございまして、ある程度多めに想定して 100 個ぐらい借りると、月 12 万ぐらいで済むとかっていう情報を集めているところではあります。導入できるかどうかというのは、予算もありますので今後検討する必要があると考えています。導入できれば、Wi-Fi がない家庭に対しても環境の確保ができるのではないかと考えているところでございます。

○**村田副市長** やはり同等の環境を整えるためにも、家庭の弱者に対する予算化を是非進めていただければと思います。

○**堀江市長** 他にございませんか。

○**山下教育委員** よろしいですか。はい。この間、教育委員会の後でさっきの全国各町の検査結果をもうお話を聞いたのですが、その中で報告があったのはパソコンタブレットをほぼ毎日利用しているという小中学生の利用状況が、県、国と比べて半分以下、あるいは 3 分の 1 ぐらいしかなかったというふうにお聞きしました。ですので、まずそういう「触れる状況をつくらないといけないのではないか」というのが 1 点気になっています。勉強の側面で行っても、多分子供たちがおもしろくないので、あまり食いつかないのではないかなと思っています。ですので、これは一つの利用の仕方であって、やはり D X 推進の理由というのは、従来と違った知識スキルが求められ、デジタルを意識した教育で未来を生きていく子供たちが、そういう技術をつかめるというのが大きな目的だとすれば、多分子供たちが 1 番入りやすい遊びとか、そういう部分の使い方っていうのもある程度必要ではないかと思っています。それで、パソコンやタブレットに興味を持ってもらった上で、こういうものを使っていく環境が求められてくるのではないかと説明を聞きながら思ったところです。おもしろくなければ多分、なかなか興味を持ってくれないので、勉強もあまり食いついてこないのではないかという気がしたところです。その点が 1 番気になりました。できれば、パソコン、タブレットに、今後 3 割 4 割の児童生徒たちが毎日少しでも関わってくれるような環境というのを整理していくための何か施策をしないのではないかと感じます。以上です。

○**堀江市長** あの、今のタブレットやパソコンに触れる機会が少ないというデータは今日の資料の中にはありますか。

○**山下教育委員** いやなかったですね。一昨日の教育委員会の中で話がありました。

○**堀江市長** 上天草市は必要だっていうことですか。

○**山下教育委員** そういうことだったですね。先生。

○**岩崎教育長** 私から説明したのですが、全学調を実施したのはひとつの学年です。その学年の子供たちが、前の年度に通常どれぐらいパソコン、タブレットを利用しているか。そういった質問調査の結果が、先ほど、説明があったところでございます。本市の子供たち全てがそうだというわけではない。ということはお断りしておきたいと思います。

○**堀江市長** 他にございませんか。

○**藤田教育委員** はい。地域未来塾の現況とも重なるのですが、今ですね、小学校のほうは行っていないからわかりませんが、中学校の地域未来塾は学力差が学年で大きいという現実があります。どうしてもその一斉授業が難しいとなると、個人別で対応するのですが、皆が同じ教材を使います。一からやりなおします。塾講師的な考え方からいくと、ものすごく効率が悪いです。ほとんど分かっていることをツラツラやり、分かってないところで時間が割けない。ものすごく効率がよくないとたまに思いますので、こういう、校務システム導入するならば当然、ここにもあるので成績集計表や苦手分野分析ができると思います。生徒ごとにプリント違っていいと思いますし、そのほうがもっと効率よく生徒にとっても、限られた時間で実りある学習ができるのではないかとこれを見て感じました。以上です。

○**堀江市長** 校務支援システムと繋がれば効率的にできるのではないかと。

○**藤田教育委員** これを地域未来塾に繋がりたいと思いました。若干生徒の宿題のお世話のようになっていますので。正直。そういうところもありますので、もう少し効率のいい使い方をこのシステムと使って地域未来塾に活用できたらよりよいという気がします。

○**堀江市長** 仮に、例えばこういう校務支援システムを導入した場合に、要は学校の中でのデータベースだと思うのですが、教育委員会の取組として地域未来塾で活用することは可能ですか。

○**宮崎学務課長** eライブラリ（学習支援ソフト）の方ですか。

○**藤田教育委員** う〜ん。どっちもあると思いますけど、このスズキ校務支援システムにも各種成績集計表ってありますよね。これを先生方が見て、この子は例えば理科と国語が苦手だとか、ということで教材があればいいんじゃないかと思うわけですね。

○**堀江市長** それは使えますか。

○**谷上学務課教育審議員** 今、藤田教育委員からのご説明がありましたけど、例えば子供たちが勉強した足跡として、eライブラリに残りますので、それを学校の教員は把握出来ます。そしてこっちの校務支援システムに教員の方で、最終的な評価という形でまた使うことでかなり効率化が図れると思って聞いているところです。以上です。

○**堀江市長** すいません。私もお尋ねなのですが、先程、もしかしたらパソコン、タブレットに触れる機会が少ない児童・生徒がいるのではないかとということですが、元々DX化を推進していこうという理由は、いろんな理由があったと思います。多分ひとつはですね、よく言われたそのプログラミングの教育を推進していくっていう大きなテーマがあったのですが、最近はある程度プログラミングがどうだということは聞かなくなりましたが、基本的には、プログラミング型の思考的な子供を育てるようなこともあったと思います。今はそういうことは、検討課題として考えることはあるのですか。

○**谷上学務課教育審議員** よろしいですか。市長がおっしゃったとおり、プログラミング的思考教育の方はですね、どちらかというと、全て全国でもう行われているというふうに捉えていただいていいかと思います。算数の授業や技術、家庭科の授業などでそういったソ

フトを使って、プログラムをつくって実際に動くような過程を行っています。そのほかという形でうちが不足していたのかなと、今考えているところです。以上です。

○堀江市長　ちなみにタブレットは、家庭に持ち帰るということは推奨しているのですか。

○宮崎学務課長　家庭への持ち帰りのほうは推奨しています。ですので、パソコンを持って帰った時に色々なサイトに繋がりますので、アクセスに制限をかけて、端末の持ち帰りでできるような体制を整えています。あとは、学校のほうで、Wi-Fi 環境があるかないかで推奨しているかを加味する学校も若干あるようなことは聞いています。

○堀江市長　うち（上天草市）は？

○宮崎学務課長　うちはOKにしています。ただ学校のほうに家庭にそういう環境がないところもあったりするので、全部持ち帰らせているという状況ではなくて、小規模校のほうはどちらかといえば活発に持ち帰りはされています。

○堀江市長　学校によって対応が分かれている。

○宮崎学務課長　はい。そうです。

○藤田教育委員　龍ヶ岳でいうと、小学校は持ち帰りますが、中学校は駄目です。

○木村教育委員　登立小学校は、1 学期ほとんど持って帰ってきていないです。例えば週末とかに持って帰ってきてても週始めの月曜日が大量荷物になってしまうので、そういった持ち帰りはしていません。

○堀江市長　どっちがいいのですかね。

○木村教育委員　宿題とかをそういったタブレットで出されたらみんな持ち帰らないといけなくなります。

○堀江市長　持ち帰ることが可能ならば、タブレットに触れる時間は長くなると思う。使用の制限はある程度かかるにせよ、チャットGPTなど、色んな関心を持つことは非常に役立つと思うので、考え方によっては持ち帰っていただいて使ってもらうことで触れる機会が増えると思う。

○木村教育委員　使用するタブレットの端末を今の機種にしている理由は何ですか。

○宮崎学務課長　市で導入しているのは、マイクロソフトの Windows なのですが、当時 3、4 年前はマイクロソフトの方が使えるソフトが多かったということで、その時はそういう選定を行った。今は、新しい安価なパソコンとかも出てきているので、今後はそういうところで選定する場合は、検討が必要と思っているところです。当時は、マイクロソフトが 1 番ソフトとか利用がしやすい状況であったので選定させていただきました。

○木村教育委員　そういう理由だろうとは思っていましたが、インターネットのつなぎ方が複雑で結局繋ぎきれなかったことがあった。操作的には意外と難しいのかなと思ったところでした。

○堀江市長　今はネット環境に繋ぐことが前提になっている？

○宮崎学務課長　そうです。

○堀江市長　LTEで繋ぐやつはないのでしょ？

○宮崎学務課長 L T E回線は、携帯電話回線の差し込み口が必要になってきますので、今購入している分にはそういう差込口がないので、基本的に別に Wi-Fi ルーターから繋ぐ形になる。

○堀江市長 ポケット Wi-Fi をコロナ禍の時に教育委員会で導入したのではなかったか。

○宮崎学務課長 10 台しかありません。

○堀江市長 そこもひとつ課題ということですね。あと、だんだんですね時代も変わって、今後、どんどん入学してくる児童生徒っていうのは、タブレットとか、それぞれに経験を積んだ子供たちが増えてくると思います。現場の教育先生方いわゆる教える側の立場として、何かご意見とかないですか。こういうのが足りないとか、こういうことで苦労しているとか。

○谷上学務課教育審議員 よろしいですか。学校の教員は、私が言うのもなんですが、結構真面目で、新しいコンピューターができれば、年齢問わず皆さん頑張るのですよね。上天草市のほうでも、パソコンやタブレットを 1 人 1 台ずつ、児童生徒にも整備していただきとても先生方も頑張っておりました。ただ、ネット環境がまだ十分でなかった点があったのも事実です。授業で一斉に使おうとすると、どうしても動きが遅くなる。そういった点を、昨年度ですね教育委員会のほうでも、バックアップして今改善に向けて取り組んでいますので、よりよく学校でも活用していけるのではないかと考えております。以上でございます。

○堀江市長 こういう機器の更新時期が来るわけですか、恐らく 6 年とかそれくらいのサイクルで機器の更新とかもあると思いますが、ソフトの開発については日進月歩で毎年のように新しいソフトとか色んなシステムが出てくる。だんだん時代遅れになっていくというかですね、運用システムの導入というのも考えていけないといけないというのが出てくるのではないかと思います。そこら辺の進化のペースについて、当然予算もかかることなので、簡単に導入というのはできない部分もあるのかもしれませんが、導入のポイントは何かありますか。

○宮崎学務課長 今回、e ライブラリを紹介しましたが、どちらかというインターネットを活用した運用に変わってきています。サービスとしてはですね。すると、どちらかという端末の性能をよくするよりもネット回線をきちんと太くしたほうが利用しやすい。グーグルクロムとか使われる方はホームページを幾つも立ち開くような形で見えてくるのですが、運用自体はネットのほうで運用したりしますので、どちらかという端末よりもネット回線とかのほうを充実していくほうが今後は、利用がしやすくなると思います。端末自体は今のままでもある程度運用は可能かと思います。ウインドウズ自体が更新とか立ち上げたときに入ってしまうので、なかなか起動しないというようなイメージがありますが、ある程度端末自体はそこまで遅れてはいないのではないかと考えているところです。

○山下教育委員 2 ページを教職員の長時間勤務についていつも気になるところですけれ

ども、やはり子供たちを支えていくためには先生たちが非常に大事だと思っています。長時間ってというのは長時間労働者が 45 時間以上のことを指していますか。

○谷上学務課教育審議員 はい。

○山下教育委員 そうですね。だから超過勤務は 45 時間未満でもあり得るということですよ。で、かなり多い状況で例えば、教材研究とか校務分掌とかってありますが、例えばこの、今説明をいただいた、システム等導入したとした場合、どの辺の事由がまず削減から可能なのか、そしてどれぐらい削減が可能なのかということと、I C T化を進めていったときに、その辺をまず削減できる項目を教えてください。これには「早急に校務支援システムが必要だ」というふうに記入されていますので、そういう必要性があるのであれば、1 システムどれぐらいの費用がかかるか、分かれば教えてください。先生方の業務負担を軽減していただきたいといつも思っています。その辺を少し教えていただければありがたいです。

○谷上学務課教育審議員 よろしいですか。教師という視点から、発言させていただきますと、このような校務支援や I C T等の整備によりまして、校務分掌の事務処理ですね、ここの部分が教師としてやはり大きく負担になっております。ここの部分がだいぶ楽になれば本来のこの教材研究により集中できるような環境になって欲しいという思いであります。以上です。

○堀江市長 私も補足というわけではないのですが、校務支援システムの貯蔵シリーズというものが、上天草市が先駆けて導入したのは事実なのですが、熊本県下においてはかなり少数派だそうで、便利なところもあるのですが、谷上先生がおっしゃったのは、熊本県の中で他地域が導入しているシステムが効率的でいいということですよ。例えば通知表とか全部リンクして使えるというようなことで、D X推進は働き方改革も大きなテーマなので、積極的に導入を検討していかないと思います。

○山下教育委員 ぜひ。

○宮崎学務課長 参考までに。この前たまたまスズキ校務シリーズの事業者が来られて確認したところ、大体今 16 校ありますので、年間 600 万円近くかかるということです。

○堀江市長 ちなみにこの貯蔵シリーズは？

○宮崎学務課長 貯蔵シリーズは、システム委託料と更新費で大体 40 万円です。

○堀江市長 値段全然違う。

○宮崎学務課長 スズキ校務自体は、教職員向けのシステムとなっています。これがデジタル田園構想補助金にも該当すると話は聞いていますので、可能であれば来年度の予算要求を行っていきたいと思っています。

○堀江市長 それは初期投資だけでしょ。導入したら更新していかんといけないので、更新費用も面倒みてくれるわけではないでしょ。

○宮崎学務課長 そうです。国は初期投資だけになります。

○堀江市長 申請をして、結局、県教育委員会の先生方も、できれば熊本県全部で導入して、

どこの地域に異動しても同じシステムが使える環境の方が望ましいと思います。

○宮崎学務課長 スズキ校務自体は、県内 45 市町村中、39 市町村で導入されています。

○堀江市長 なら、うちは少数派ということ。

○宮崎学務課長 そうなります。

○堀江市長 総合教育会議としては、導入に向けてということでよろしいですか。

○出席者一同 はい。お願いします。

○堀江市長 他に意見がなければ、次の議題の前に、5 分間休憩といたします。

< 5 分間休憩 >

(2) 上天草市立図書館の利用促進について

○堀江市長 それでは休憩に引き続いて再開したいと思います。議題に「上天草市立図書館の利用促進について」説明をお願いします。

○小浦社会教育課長 はい。資料 2 をご覧ください。上天草市立図書館の利用促進についてということで、上天草市本と歴史の交流館イコットが 10 月から供用開始することに伴いまして、図書館や交流施設等の運用方法を共有すると共に、これを機に上天草市全図書館において、電子図書の導入等を含めた利活用の方法等を検討し、利用促進を図る必要がありますので、これに対してご意見をいただきたいということで議案としてあげさせていただきました。資料の 1 ページをご覧ください。こちらには、現在行っております整備工事の進捗状況を記載してございます。令和 4 年度末に建築工事が完了しております。現在、10 月のオープンに向けまして、外構工事、公園工事、それから歴史資料館の展示や、デジタルコンテンツの制作及び電子図書館システムの導入作業を行っております。

次に 2 ページから新大矢野図書館及び交流館の利用促進についての説明となります。2 ページをご覧ください。まず、図書館の現状と課題としまして、市民ニーズが図書の貸出しから滞在、サードプレイスとしての図書館に変化している中で、貸出し冊数及び需要の低迷が課題となっております。そこで、多様なニーズにこたえられるよう、誰でも気軽に楽しく活動でき、地域拠点・交流の場となり、情報が集まり発信できる場を基本理念としまして、図書館運営の在り方について、図書貸出しサービスの向上、未来の利用者のための図書館、地域の拠点となる施設、情報発信基地の 4 項目を将来イメージとして設定し、これらの機能を充実させることとしております。

次の 3 ページになりますが、各項目の説明になります。まず、図書貸出しサービスの向上としまして、これまでの基本的な事業に加え、新たな機能としまして、自動貸出し機、読書通帳機、インターネットの調べのためのパソコン及び電子図書館を整備し、サービスの向上を図ります。次に、未来の利用者のための図書館としまして、新たに歴史資料館収蔵スペースを整備するとともに、学芸員を配置し、展示物の整備や来館者への説明等を行います。また、上天草市の自然や歴史に関する体験型映像コンテンツを導入し、地域の学習活動や郷土愛の醸成を図るとともに、観光誘客を進めます。

次に、4 ページをご覧ください。地域の拠点となる施設につきましては、まず基本的機

能としまして、開館時間をこれまで10時から18時だったものを9時から19時までとし、前後1時間ずつを延長します。また、フリーWi-Fi等を導入し、通信環境の整備を行います。新たな機能としまして、学習コーナーや郷土資料コーナー、自主学习等を支援する公設塾、子供図書コーナーやお話コーナーを整備するとともに、コンシェルジュを配置し、施設案内やエントランス及び交流スペースにおける各種活動の支援を行います。

次に、5ページをご覧ください。情報発信基地としまして、ICTを活用した情報発信機能を充実させるため、デジタルサイネージを配置し、交流館、情報施設、観光、歴史、文化、イベント等の情報発信を行います。次に、管理運営の効率化としまして、BDSゲートを設置し、利用者数の把握、防犯カメラや機械警備等の防犯対策、ICタグ読取リーダー及び蔵書点検機器を整備し、業務の効率化を図ります。また、本交流館が親子で楽しめる憩いの場となるよう、交流館横に広場を整備しまして、大型の日よけや小学生及び幼児を対象とした遊具等を設置することにより、施設全体の集客力を高めます。

次に6ページをご覧ください。上段に年代別の利用状況を示しておりますが、赤の点線で囲んでいる年代13歳から20代の貸出し冊数が少ないことが分かります。このことから、低迷している貸出し冊数の増加につなげるため、新たに整備する電子図書館におきまして、若い世代をメインターゲットとした選書を行い若い世代の読書機会の創出を図ることとしております。説明は以上となりますが、電子図書はどういうものか前の画面で見ていただきたいと思います。

○松下文化教育係長 はい。こちらの電子図書館のデモサイトのトップ画面になります。こういう形で、こちらの今回のオーバードライブという会社の対応になりますけれどもまず、オーバードライブマガジンという読み放題のバックになります。通常1人が読んでいたら他の方は読めないのですが、こちらは同時アクセスが可能となります。総数が全部で4,700タイトルあり、国内の雑誌が115、残り外国の雑誌も含めて全部で4,700あるという状況です。ここには読み聞かせ洋書ですとか、今月のお勧めタグ、NHKの働く細胞でこれは今人気があります。あとは司馬遼太郎作品集などです。これらの構成は上天草電子図書館で変更可能です。TRC（図書館流通センター）も導入を予定しており、オーバードライブと同じで同時アクセスが可能で1年間見放題のバックとなっています。こちらは英語の本になります。こちらはスターウォーズで、音声でまして英語で読み上げます。今回導入する書籍は、予算的に総額858万円で、そのうち約850万円はこれらのタイトルを購入する予定です。購入するタイトル数としましては、約3,000冊程度。あと青空文庫と言いまして著作権が切れた、無料で閲覧できる国内の本が約1万冊。外国書が約2万冊、トータル3万4,000冊程度のアイテム数をそろえることができます。こちらの小説で、例えば、白が背景になっていますが、ここは設定でダークにすると背景が黒になり、黒背景に白の字で見られるようになります。このほか子供向けのアイテムがありまして、先程のように音声付きで読むことができます。雑誌には料理のレシピ本もありまして、熊本市は女性の利用が多いということで、こういったコンテンツも追加することができま

す。先ほどの読み上げのタイトルについては、洋書だけではなくて、和書もございます。色々な使い方をしていただけたと思います。

先程、課長からも話がありましたけど、本市の図書館利用者が、やはり中学生から20代の世代が極端に少ないので、そういった世代に波及するようなアイテムを中心にそろえていこうと考えています。このデジタル専用のアプリがございまして、アプリをダウンロードしていただいてログインしていただくことも可能ですし、アプリをダウンロードするのがいやな方は、画面上のショートカットやアイコン画面を作っていただいてログインすることもできます。ログインするためには図書館の利用者カードを作っていただくことが必要な部分で、IDとパスワードを入力することで、いつでもどこでもアクセスが可能になります。

○小浦社会教育課長 説明は以上となります。

○堀江市長 ただいま説明が終わりました。皆さまからご意見やご質問はございませんか。

○藤田教育委員 いいですか。洋書に関してですが、通常洋書ってものすごく難しい。自分も持っています。英語のレベル別に設定しないと、読めないものがほとんどです。その辺のレベルが分かるのかというのがオーディオブックで分ればいいなと思います。

○松下文化教育係長 はい。レベルというか、読み聞かせできるものが、中学生高校生が読めるくらいのレベルで、何十万というタイトルがあるので、そこは選書の段階で難しいものは抜いて、簡単なもので、比較的日本人が好きそうなタイトルを選んでいきたい。レベル感はメーカーに確認して選んでいきたい。

○藤田教育委員 それはしたほうがいい。さっきのスターウォーズは高校生でギリギリ読めるかなと思います。

○山下教育委員 速さを変えられるのでしょうか。

○松下文化教育係長 はい。変えられます。

○村田副市長 関連しますけど、現在の蔵書数と最終的な蔵書数の予定っていうのは。今、本の種類というのはどのようなものを入れているのか。それと今からは誰でも使えるようなシステムを導入することでしたが、これは誰でも使えるようなシステムになっているのでしょうか。その辺をご教示願います。

○小浦社会教育課長 誰もが使えるシステムとは電子図書のことですか。

○村田副市長 3ページにある「基本的機能」とか「新たな機能」とかその部分の機能です。

○小浦社会教育課長 まず、蔵書のほうですが、現在森記念図書館の蔵書数が28,000冊ほどございます。そちらをそのまま新図書館に移す形で考えております。それから、今年度2,300冊ほど購入しまして、令和8年度までに開館後の蔵書で35,000冊に達成させる計画で進めています。令和15年度までに最終的に6万冊ということにしております。

○堀江市長 今現状で各図書館の蔵書数を教えてもらえますか。

○松下文化教育係長 全部で約11万冊だったのは記憶しています。

○堀江市長 それぞれでお願いします。

- 松下文化教育係長** 中央が5万冊程度じゃなかったかと思います。
- 堀江市長** 中央は55,000冊ではなかったか。
- 小浦社会教育課長** すいません。先ほどの最後の質問で、3ページの新たな機能のところ
で、こういう機能につきましては、来館された方々は全て利用することができます。
- 村田副市長** 簡単に使えるのですか。
- 小浦社会教育課長** そうですね。例えば自動貸出機は5冊なら5冊をまとめて機械の上
に置きますと、I Cタグを設定していますので、それを自動で読み込んで貸出が可能にな
るということになります。一冊一冊バーコードを当てる必要がなく、まとめて読込みがで
きることとなります。
- 堀江市長** 他にございませんか。
- 松下文化教育係長** すいません。先ほどの各館の蔵書数なのですが、森記念図書館が約
28,000冊、中央が約53,000冊、姫戸が約13,000冊で、龍ヶ岳が約12,000冊で、合計で
約110,000冊となります。
- 堀江市長** 他に何かございませんか。
- 村田副市長** 開館時間が10時から18時を9時から19時までに変更ということですが、
他の図書館の開館時間は何か考えているのか。
- 小浦社会教育課長** 中央と姫戸、龍ヶ岳につきましては、これまでどおりの開館時間で
運用を考えています。今後の利用状況をみて、時間を延ばした方がいいという状況になれ
ば、その時に検討したいと思います。
- 村田副市長** 利用状況に応じて変更をする可能性があるということですね。あと、利用に
当たって森記念図書館よりは行きやすくなると思うのですが、どうしても交通弱者がい
ると思います。そういう人達に対する対策や対応は何か考えていますか。
- 小浦社会教育課長** 交通弱者の方に対する特別の対応というのはないのですが、基本的
なところで、身障者用の駐車スペースを玄関前に整備しております。そういうところで対
応しています。
- 堀江市長** 他は何かありませんか。
- 小浦社会教育課長** すいません。デジタル図書館の方で今のデモでありましたように、自
動読み上げ機能ですね、こちらの方で視覚障害の方に対応できるかと考えています。
- 堀江市長** 他はありますか。
- 山下教育委員** 全く新しい機能で図書館が生まれるわけですので、例えばこれ年間の来
館予定者とかはどれぐらいに推計しているとか、何かありますか。
- 小浦社会教育課長** はい。年間の来館予定者、来館目標数になりますが、年間約7万人程
度を予定しております。これは図書館だけではなくて、歴史資料館そして隣接します天草
四郎公園の利用も含めまして7万人というところになっています。
- 山下教育委員** ありがとうございます。もう1点いいですか。昨今、子供さん方をお持ち
の方々が逆にいろんな場所で居づらいという、そういう話がたくさん出ていて、できれば

そういう方々が、ゆっくり子供さんと一緒にできるようなそういうスペースや、赤ちゃん何とか、そういう利用できるところとかあるのでしょうか。子供が泣いても別に気にする必要がないところです。今結構責められるっていう記事がたくさんあるので、何かそういうところがあったらいいと思っています。

○小浦社会教育課長 小さい子供に対応するスペースを設けています。ただし、壁があるわけではなく繋がっていますので、多少声は聞こえるかもしれませんが、そういうスペースは一応用意しております。

○山下教育委員 ありがとうございます。もう1点いいですか。かなり今図書館って、いろいろ話題になっていて、例えば利用者が非常に多いとかいろんなものもありますが、本来の目的は図書という部分だと思います。それに付随したものである程度人に来ていただくためのいろんな企画っていうのは必要だと思っています。例えば外側のところで、何かイベント的なものが実施することは可能なのですか。

○小浦社会教育課長 はい。屋外でのイベントといいますか、施設や広場を利用して、大きいのはできませんが、何かしたいと考えています。後で、施設内で、そういう活動というところでは、夏休み冬休みの子供たちの学習の場として利用していただくことや、英会話とかパソコン教室、それからスマホ教室とか、そういう教室を図書館の中ではなくて、その反対側にある交流スペースを設けておりますので、そちらでそういう地域の教室を大きくはできませんが、できるようになっています。

○山下教育委員 飲物を飲んだりはできますか。

○小浦社会教育課長 図書館内ではできません。交流スペースのほうではできます。

○山下教育委員 はい、ありがとうございます。

○堀江市長 すいません。私たちのことなのですが、子供が泣いたりとか困ったりされるケースがありますけど、計画している頃が一番コロナが多い時期で、どうやってそういう対策をとりながら検討していくか結構苦労しました。いくつか部屋が分かれています。外にバルコニー的なものを造って、外でもそういうのができるようになっているので、利用してもらえれば周りの目を気にせず利用してもらうことは可能と思います。あとですね、今の図書館というのは、本を貸し借りするだけではなくて、多目的で多くの方々が利用しやすい図書館にというのが今の流れなので、我々もただ単に図書だけではなく、小さなイベントが企画や一般市民の皆さん方がサークル活動とかちょっとした講演とか会合とか、そういう利用ができる交流スペースを設けて、それをある程度予定できるように、コンシェルジュを設置する運営を考えているところです。あと、飲食についても図書館の中ではできないのですが、そういった交流の場ではコーヒーとかもあった方がいいので、市内の事業者のキッチンカーとかが入って、そういう機会が設けられるような企画を考えています。他にありませんか。

○藤田教育委員 ちょっといいですか。教育委員のお二人もお母さん方なので、おわかりだと思うのですが、上天草市ってものすごく習い事格差が都会と比べるとあると思っています。

ます。保育園の保護者の方と話すとすぐそういう悩みがあるって出てきます。せっかくでするので、こういう交流スペースを使って、例えば市からいい講師を招聘するとか月1回でもいいので、そういう何か熊本市ではないと受けられないような習い事があったりすると、親としてはうれしいと思います。例えば、プログラミング塾ひとつとっても、市長もさっき言われましたが、学校でやっているのは本当に基礎中の基礎で、実際にその仕事で使うようなプログラミングは塾では習いません。熊本市だと、春ぐらの熊日に載りましたが、2人の高校生がもうアプリをつくったという記事が載っておりました。実はお寺の中でやっていますが、プログラミング塾をお寺の中でやっています。その生徒2人がぶよぶよみたいなゲームアプリをつくったという。熊本市内というのは、そういうレベルに達しているわけですね。ところが上天草市は、本渡までいかないはまだ塾、教室さえないような状況で、プログラミングだけではなく、ダンスとかいろいろですね、結構親御さんの希望にかなう習い事がなかったりします。そういうことをアンケート調査して1回必要なものを集約できると、いろんな親御さんが助かるのではないかと思います。

○**小浦社会教育課長** ご意見ありがとうございます。新しい図書館の交流館ができましたら市民の方々と意見交換を行う場を設けようと思っております。それから、そこにどなたでも来ていただくというのは難しいので、例えばPTAの代表の方とか、議会の議員さんとか、地域の方に何人か代表として寄っていただいて、中でこういうことができないかというご意見をいただけるような場を設けていきたいと考えておりますので、その辺も含めて検討していきたいと思います。ありがとうございます。

○**堀江市長** せっかくならPTAとか議員さんだけではなく、もっと幅広く一般市民の方から意見を聞いてみようとか。どの道やろうとするならば、それなりに参加者が増えないとどうにもできないので、どういうことに関心が持たれているのかこの機会に調整もあかりかと思います。

○**千原教育委員** 全国的に漫画本を置くのはタブーとされていると思いますが、調べたら絶対ダメということはないと書いてあって、さっきコナンが載っていました。選書は終わっているとは思いますが、今の子どもたちは、逆に活字離れが大きな問題になっていまして、まず本を読みたい気持ちにならせないとこの年代は図書館を利用しないと思います。何か目的があれば行くとは思いますが、まず興味を持つような本のアプリとかに力を入れていった方がいいのではないかと思います。後、漫画の本を入れるのは難しいかもしれませんが、熊本県の県立高校で漫画専攻ができて、子供たちが行きたくなるような仕掛けづくりというか、そういうのがあればいいと思います。実際、選書されている本の中にコナンのような漫画はどれくらいありますか。

○**松下文化教育係長** 漫画本を全然置かない訳ではなくて、ワンピースは置きます。何でもOKではなくて、電子図書館で先程お話したとおり、中学生から20代の人たちを一番のメインターゲットとしておりますので、漫画のコーナーを設け、気軽に読めるような本を選書していきたい。

- 千原教育委員　そういうのがあるとわかったら利用すると思います。
- 松下文化教育係長　意見や本のリクエストを書いてもらうことができるようになってるので、意見を集約して、要望に合った本を入れていきたい。
- 千原教育委員　ありがとうございます。
- 堀江市長　この間、大阪の図書館に久しぶりに行ったのですが、漫画がいっぱい置いてありました。
- 千原教育委員　ほんとうですか。
- 堀江市長　この前、合志市にいったら漫画ミュージアムがあって、入りきらんくらいあるので、欲しいならやりますと言われた。場所さえあるならば。新図書館ではなくても、松島とか姫戸に置いてもいいし、やりようはあると思います。
- 山下教育委員　私の同級生の娘が書いている漫画（薬屋のひとりごと）はあるのですか。
- 松下文化教育係長　一応、あります。
- 堀江市長　それと電子図書に力を入れれば入れる程、子供たちの端末の活用の利便性を上げてやらないと、色々読めないのではないですかね。正直、私が電子図書で読んだことがないし、見えないかもしれない。
- 松下文化教育係長　学校につきましては、タブレットで読んでもらおうと思っておりまして、導入後に各学校へ説明に伺おうと思っています。
- 堀江市長　学校では本を読む時間がないだろうから。
- 松下文化教育係長　先程のタブレットでIDやパスワードを作ってもらうなどして、ログインして好きな本が読めるよう、電子図書の利用は拡大できます。

5 その他

- 堀江市長　他は何かないですか。よろしいでしょうか。図書館のことで何もないければ、その他全般でも結構ですので、ご意見等があれば。
- 藤田教育委員　教育委員会でも時々話したりするのですが、結構貧困家庭に子供が3人くらいいたりして、もう高卒で働いて経済的にきついから、とにかく働いてくれと。給料の低い職に就いて、また、その人たちが早めに結婚してみたいな、貧困の連鎖みたいなのが結構生じていると思います。それがまた教育にあまりよろしくない状態になっていて、ちょっと問題がある子に育ったりとかですね、さらに母子家庭になって心に問題を抱えたりして、様々な問題を引き起している場面が見受けられたりします。低所得者世帯に習い事でもいいしスポーツを頑張る子はスポーツ用品でもいい。結論から言うと学びのためのプレミアム券みたいなのが天草市には子育て支援であると思いますが、そういうものが全家庭とは言わず、就学補助認定を教育委員会でやっていますので、あの法基準割合でいくと、3未満でも2以下でもいいのですが、とにかく貧困家庭は習い事をするのが難しい。スポーツさせるなら、スポーツ用品を買うのが大変で、そういうところに例えばスポーツ用品店とか習い事が塾もそうですけど、そういったところで使える月5,000

0円くらいのプレミアム券とかがあったりするといいのではないかと思います。低所得家庭だけでいいと思うので、そういうことが天草市みたいにあると思った次第です。

○堀江市長 その天草市の事例は、誰か。

○藤田教育委員 確か何かピンク券が、調べたらありました。

○堀江市長 木村委員はご存知ですか。

○木村教育委員 初めて聞きました。すいません。

○堀江市長 情報は確認しますが、必ずしも教育委員会だけのお話ではないと思います。実際、子育て世代や貧困家庭を支援とか、必要な場面になります。

○藤田教育委員 完全なる金券にすると親が違うことに使ってしまったらおしまいです。この学びのためにしか、子供のスポーツとかそういう頑張りのためにしか使用を限定できるように、お店を限定したほうがいいのではないかと思います。

○堀江市長 学びのためのプレミアム券ですね。

○藤田教育委員 現状として、今、私の塾で小学生 500 円です。1 時間ですね。月で 3,000 円から 2,000 円ですが来れない家庭もあります。こういうものが必要なのではないかと。うちに来れないということは、習い事にも行けないので、すごく教育格差が生まれている子供たちが実はいるのではないかなと思います。

○堀江市長 上天草市内の友だちが行っている学習塾以外で色んな習い事ができる教室はどれくらいあるのか。

○藤田教育委員 松島、大矢野は多いのではないかと。龍ヶ岳はそんなに多くはないです。

○堀江市長 習字とかそろばんとか。

○藤田教育委員 松島はそろばんがありますよね。できたと聞きました。龍ヶ岳は習字とピアノぐらいです。地元の習い事教室でも使えるように、要は券をもらったら庁舎に行ったら換金できるようにするシステムがあればいいかと思います。

○山下教育委員 ただ、うちの子どもはだいぶん前の話ですけど、習い事はあったが、行っている子どもはそんなにいなかったような気がします。運動してればなかなか行けないというのも現実的にあったりしていたので、二つも三つも習い事している子っていうのはいなかったのではないかと思います。

○藤田教育委員 保護基準割合の認定を毎回見ていると、二つも行けないというか一つも行けない家庭もあると思います。

○山下教育委員 今、いろんなお金が必要なところ、例えばサッカー教室なんか多分取っていないところがあったりしますね。だから、かなり差があるのは事実ですので、今後、部活動が地域に移っていく中では教育委員会の中でもいつも話しているように、なるべくみんなが参加できるように議題には上がってくると思う。

○堀江市長 今後、社会教育化が進んでいった時に、例えば大矢野のドリームズ、松島のアロマクラブでは、年間でどれくらい家庭の負担が発生しているのかというのはデータがありますか。

- 藤田教育委員** スポーツ用品は高いです。野球とかやろうとしたらすぐお金かかります。
- 堀江市長** 大阪とか野球が盛んなところのクラブチームでは年間 100 万円かかるところもあると聞いている。そこまではかからないとは思いますが。
- 藤田教育委員** 大阪で塾に勤めたことありますが、月 5,000 円の補助があります。結構みんな来れます。
- 堀江市長** 塾に 5,000 円の補助があるということですか。
- 藤田教育委員** そうですね。塾だけではなかったと思いますけど。私は塾しかわかりません。
- 堀江市長** 月ですか。
- 藤田教育委員** 月です。どういう条件かわかりません。その関係で塾に来れるとは聞いていました。
- 堀江市長** いわゆる低所得者にとということですか。
- 藤田教育委員** そこまではわかってないです。少なくとも 5,000 円の補助で来ている子はいました。塾だけではなく、結構スポーツも盛んだと思います。サッカーの人たちも結構出ています。シューズとかも馬鹿にならないと思います。5,000 円ためて 25,000 円ぐらいのものを買えたらいいいと思ったり、いろんなことを頑張れる上天草市にならないかと少し思った次第であります。
- 堀江市長** 他の事例も調べて今後の課題としたいと思います。
- 山下教育委員** 昨日、介護保険福祉計画の方でも最終的に子供たちがかなり減ってきていてもう 20 年先には半減するという厚労省のソフトを使ったデータがありました。0 歳から 15 歳のところを増やしていく施策が必要なのではないかという話が昨日も出ていました。今言われているように、子供たちが生き生きと輝いていく上天草というのが確かあったと思うので、ぜひ、そういうところのいろんな部分について、頑張っていける子供たちを支援するという姿勢は私もすごく必要だと思います。もう事業をやるにも、次世代を担ってくれる子供たちがいないようでは、なかなか先が見えてこないという状況を非常に感じていますので、ぜひおっしゃったようなところをいろいろ調べていただいた上で、少しずつやっていただけるとありがたいと思います。
- 堀江市長** 色々と考えていきますので、よろしく願いしたいと思います。他にございますか。なければ予定されていた時間となりますので、これで会議を閉じたいと思いますがよろしいですか。それでは進行は事務局にお返しします。

6 閉 会

- 赤瀬教育部長** 以上を持ちまして、令和 5 年度第 1 回上天草市総合教育会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。